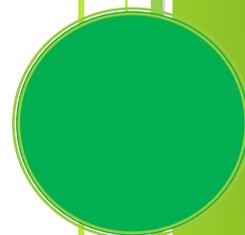


新しい時代に必要となる資質・能力
（「学びに向かう力 人間性」）の育成を目指して
～PDCA サイクルを意識した教育活動の展開～

大分市立大在西小学校 石井真澄
2018/01/12



新しい時代に必要となる資質・能力 (「学びに向かう力 人間性」)の育成を目指して

～PDCA サイクルを意識した教育活動の展開～

I. はじめに

新学習指導要領改訂の方向性として、変化の激しい社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのために、「何ができるようになるか」が重要であり、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」ということも大切な視点とされている。

「何ができるようになるか」として、育成を目指す資質・能力の三つの柱、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力 人間性等」が明示されている。

注目すべきは、「学びに向かう力 人間性等」を打ち出していることだ。点数では、はかることのできないこのような資質・能力の育成は、教育でもっとも大切にすべきものであると感じる。私自身、社会において「人間性」というものが、知識や技能以上に問われるものであると身をもって実感している。また、子ども達につけたい力として、「強い心・優しい心・自分で考え行動する力」をモットーに日々、子ども達と向き合っている。国を挙げて子ども達に真の生きる力を付けようとしていることが何よりうれしい。そして、それをしっかりと受けて我々が目の前の子ども達に新しい時代に必要となる資質・能力を確実に身に付けていかなければとも感じている。



2 研究主題

新しい時代に必要となる資質・能力(「学びに向かう力 人間性」)の育成を目指して
～PDCAサイクルを意識した教育活動の展開～

3 主題設定の理由

日々の実践の中で、意識的に行ってきたことがある。PDCAサイクルを回すことだ。授業でも、何かの活動を始める時にでも、子ども達に課題をもたせたり、願いをもたせたりしてきた。いわゆる導入や、きっかけ作りである【Plan】。そして、それら子どもの課題や思い、願いをもとに授業や活動を進めてきた【Do】。そして、活動の途中では、中間の見直しを行い、次に活かしていく形をとってきた【Check】。授業や活動の終わりには、振り返りをさせていくことで、子ども達につけた力を自覚させていく。そして、それらの力を次に活かしていけるよう仕組んでいく【Action】。この一連の流れ(PDCAサイクル)を経ていくことによって、子ども達に力がつき、成長を重ねてきているのではないかと感じる。

そこで、このPDCAサイクルを意識した取組を通して子ども達についた力を確認し、検証を行うこととした。



4 研究仮説

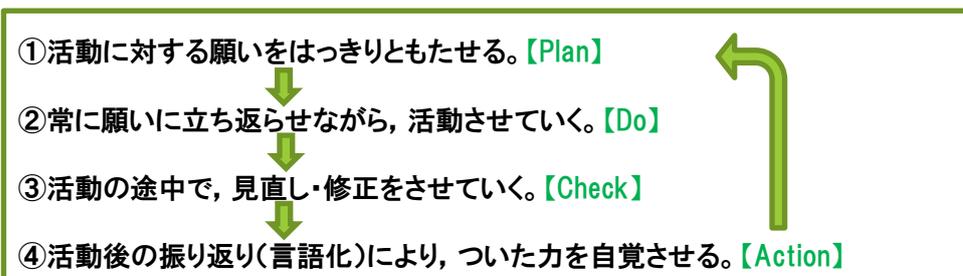
【研究仮説】

※PDCAサイクルを意識した学習活動の展開を仕組み、子ども達の願いや思いにそった流れを常に意識していくことで、子どもは主体的・対話的に学習活動を進め、深い学びをしていくであろう。そのことが新しい時代に必要となる資質・能力を身につけさせることにつながるのではないかと考える。

研究方法

(1)研究方法

研究仮説で述べたPDCAサイクルを自分なりに具体化し、学習活動の場面に取り入れて考えてみた。それは、以下のようなになる。



これらの検証を行っていくこととする。検証場面は、(1)学級づくり、(2)運動会の表現づくり、(3)総合的な学習の時間の授業の3場面とする。

(2)研究方法について

①活動に対する願いをはっきりともたせる。【Plan】

どの活動においても、子ども達に願いをもたせることを大切にしたい。子ども達が願いや思いをもっていなければ、それらは「やらされるもの」でしかない。主体的な学びのためには、この部分が一番重要となる。大げさに言ってしまうと、子どもが願いをもちさえすれば、その活動は、8割は成功したと考えている。

②常に願いに立ち返らせながら、活動させていく。【Do】

願いをもとに、活動を進めさせていく。活動途中で、常に願いを確認できる状態にしておくことも重要である。授業であれば、課題を板書に位置付ける。活動の際にも、テーマやめあてを子ども達が意識できるよう、常に何らかの手立を講じていく。

③活動の途中で、見直し・修正をさせていく。【Check】

活動が始まったとしても、その途中で、もともとの願いを忘れてしまったり、活動が停滞してしまったりすることは少なからず起こってしまう。その際、子ども自ら、見直し・修正をさせ、次の活動につなげていけるような場を用意する。

④活動後の振り返り(言語化)により、ついた力を自覚させる。【Action】

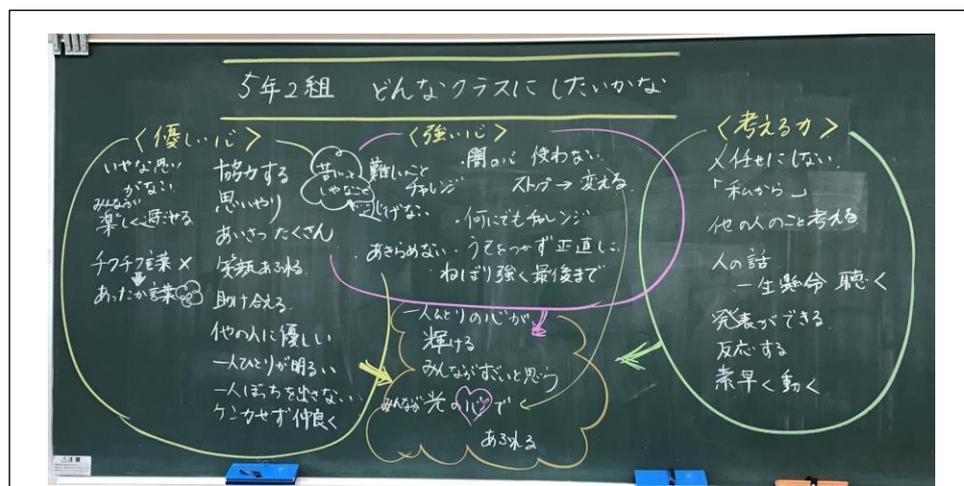
授業であっても、活動であっても、振り返りが欠かせない。振り返りをさせることで、子どもに、自らがつけた力、足りなかった部分を自覚させることにつながる。そして、自覚できた力を次に活かしていこうと意識させることができるようになる。子どもが自分についてた力を意識することは、その後の個々や集団の成長に大きく影響すると考えている。

6 研究の実際

(1)実践Ⅰ：学級づくり「どんなクラスにしたいか」より

①実践Ⅰの概要

ここでねらったのは、「どんなクラスにしたいか」を考え、出し合わせていくことで、一人一人がクラスを創る主体者となることを実感させ、自分達の手でよりよいクラスを創っていこうという気持ちをもたせることにあった。子ども達が目指したクラスは、以下の板書の通りである。



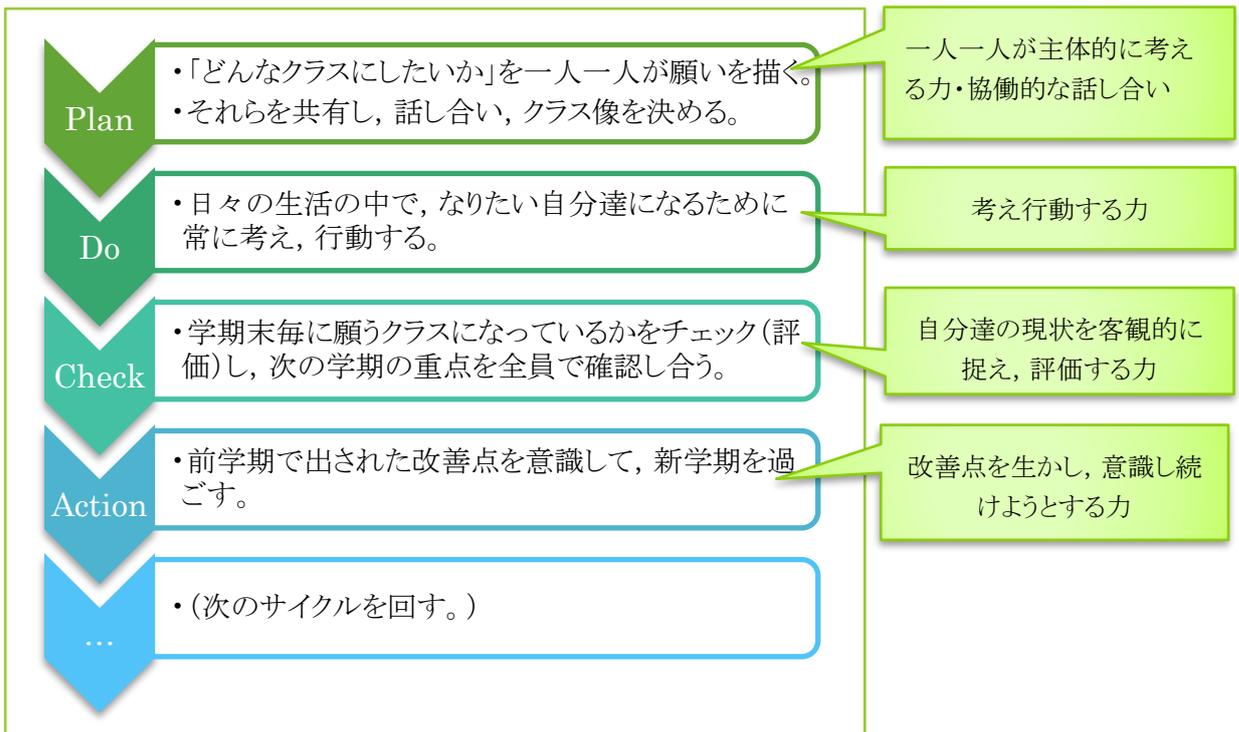
これらの願いをもとに、学期末毎に、そんな自分達に近づいているかどうかを子ども達に考えさせてきた。その都度、自分達で話し合いを進めながら「これは、かなりできてきたけど、まだ十分ではないから、2学期に気を付けていこう」などの声を互いに掛け合っていた。教室に掲示したのを見ながら、できているものにシールを貼っていく様子は、まさに自分達で、見直し・修正を行っている姿であった。

【教室掲示(見直しシール貼り付け済み)】

②実践 I の分析

【子どもの活動】

【子どもについた力】



(2)実践Ⅱ：自分達で創り上げる運動会表現「西小よさこい」より

①実践Ⅱの概要

運動会の表現においては、次のようなねらいをもった。「大運動会で挑戦する『西小よさこい』を通して、158人の体と頭と心の力を合わせたものに創り上げようとする意欲をもち、チームで同じ目的に向かって協力し合う喜びやつらいことに向かっていく克己心を身に付けることができる。」このことを念頭に置き、学年での指導を行った。

どんな「西小よさこい」にしたいかな

心

<見ている人>
「カッコいい」
「すごい」

頭

あきらめず
協力する力
心をひとつに

体

おもいっさり練習
全員のチームワーク

158人の体と頭と心の力を
使って、「西小よさこい」を
つくろう。

【表現「西小よさこい」きっかけ集会板書】

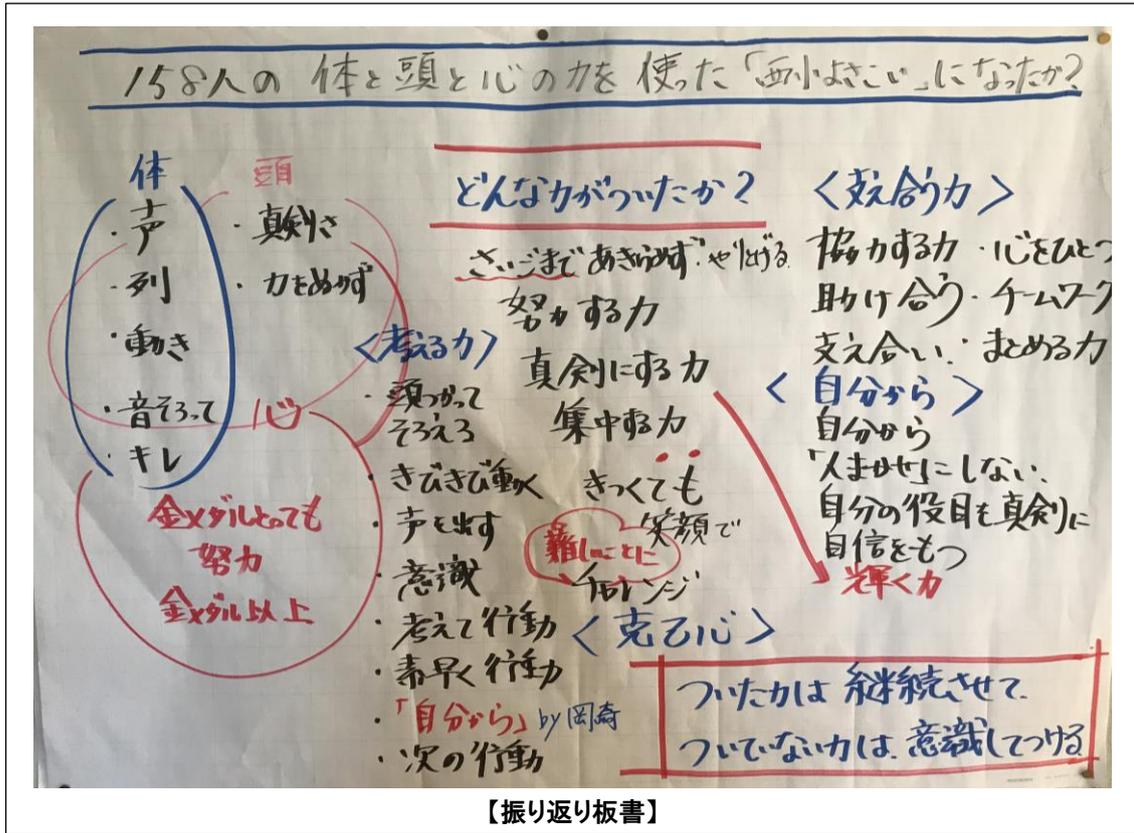
実際に8月28日に学年でのきっかけ集会を行い、子ども達に「『西小よさこい』を創り上げたい」という意欲をもたせることができた。その後、学年での練習や、クラス毎に10人のチーム編成を行った練習を経て、表現が出来上がったところで、中間の見直し・修正を行った。そして、改善点を出し合う中で、大運動会当日には、見ている方を感動させる素晴らしい表現を158人で創り上げた。子ども達の自信にあふれた笑顔は、今でも忘れられない。運動会後には、学年で振り返りの時間をとり、自分達についての力を自覚させ、それを今後生かしていこうと確認することができた。



【教え合いの様子】



【中間見直し：「158人の体と頭と心の力を使った西小よさこいになっているか」】

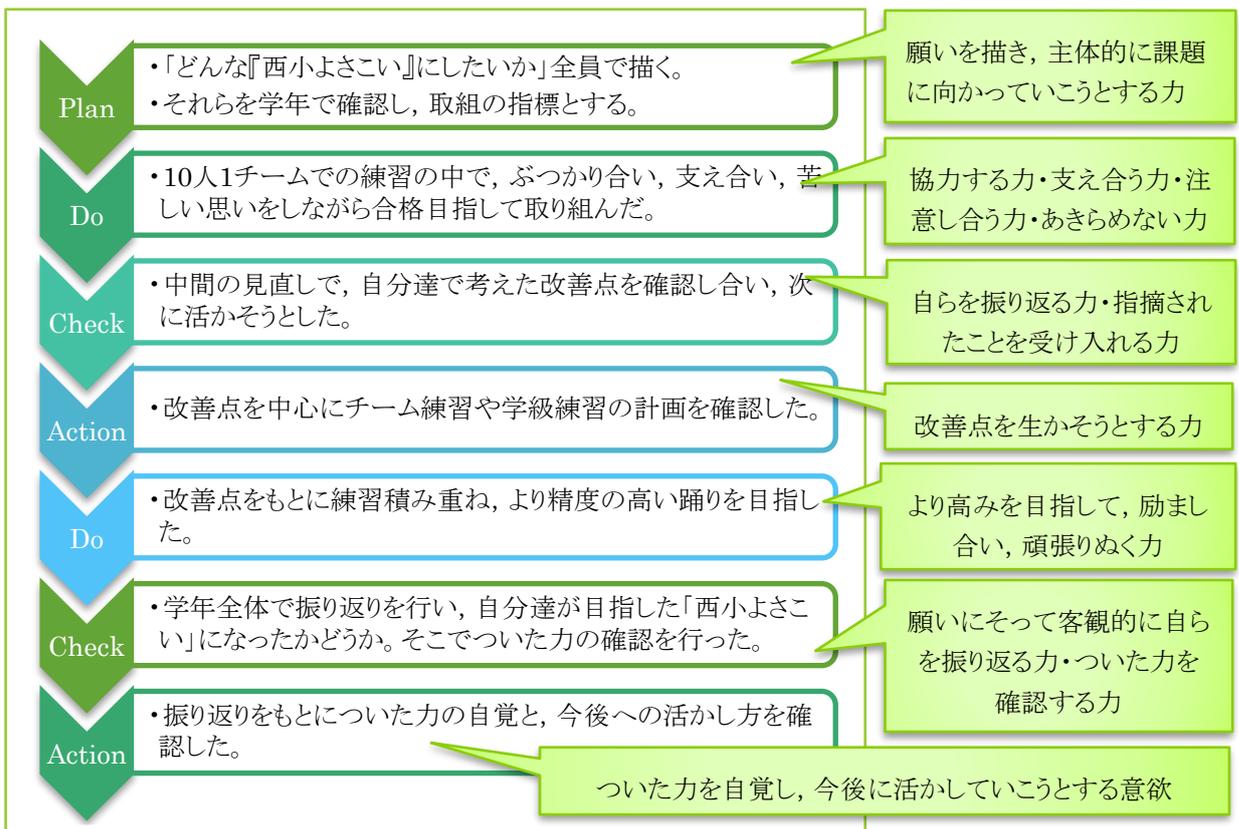


【振り返り板書】

②実践Ⅱの分析

【子どもの活動】

【子どもについた力】



(3)実践Ⅲ：主体的・対話的で深い学びを目指した総合的な学習の時間 「大在米の可能性を探れ！」(大単元名)より

①実践Ⅲの概要

2学期におこなった総合的な学習の時間は、学年共通で教材としては収穫したお米を扱ったが、実際の授業は、学級毎に行った。それぞれで切り口を変え、子どもの願いと教師の願いをすり合わせながらの学級総合を目指した。活動内容は違っていても、そこで子ども達に付けたい力を確認していたので、ブレることはなかった。新採用1年目・2年目の先生もが、子ども達の思いや願いを汲みながら、探究過程のスパイラルを何度も回し、立派に子ども達に力をつけていった。各学級の小単元名は以下の通りである。

組	小単元名
1	わらやぬかまで最大限に活用できるか
2	売れるお米にするには、どんなパッケージにすればいいか
3	お米パーティーをどうするか(企画・運営)
4	売れるお米やお米パーティーの広報・宣伝活動はどのようにすればいいか

本学級の2組は、お米パーティーの資金作りのために、保護者の方に収穫したお米を売るという学習活動を組んだ。ねらいとしては、以下の3つの観点で単元の目標を立てて、授業を組み立てていった。(学年共通の単元目標)

I 知識及び技能	II 思考力, 判断力, 表現力等	III 主体的に学習に取り組む態度
お米の栄養素・用途・副産物などを知り、その活用方法を身に付けるとともに、田んぼのお世話をしてくださった地域の方の思いに気付き、自分達が多くの方に支えられていることにも気づく。	収穫したお米の使い道を探っていく中で、その解決に向けて仮説を立てたり、調査をして得た様々な情報をもとに整理・分析したりするとともに、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	収穫したお米の使い道を探っていく活動に主体的・協働的に取り組むとともに、地域の方に感謝の気持ちを持ち、大在のために自分ができることを考え、行動していこうとする態度を育てる。

活動の中で、一貫して、「売れるお米のパッケージにするには、どうすればいいか」が子ども達の課題として位置付けていたので、意欲が途切れることはなかった。途中、スーパーに出向いて米袋を調べたり、新米のシールを試行錯誤して作ったりと子ども達の活動は、その願いに基づいて、流れるように進んでいった。もちろん、どうすべきかまよって立ち止まることもあったが、その度に、友達と話し合い、よりよい方法を見つけようとしていた姿があった。子ども達のおかげで、強い願いに後押しされて、活動が流れていく様子を見て取ることができた。



以下に2人の振り返りシートの一部を抜粋する。

【子どもについた力

<A児の振り返りシート>

(本人の自覚)】

今日ぼくが、総合をして学んだことは、2つあります。1つ目は、みんなの思っていることです。どうしてこのことを学んだかという、ぼくたちの班は、ブランドを米の袋に入れていないけど、ほかの班は、入っていて、わけを聞くと、ぼくもブランドを入れた方がいいと思ひ、人が思った意見を聞くとやっぱり自分の意見も変わることを学びました。2つ目は、写真と絵、どっちを米の袋にかくか、貼るかで、そのことの想像力です。(中略)迷った時は、想像力を使えば、こんな風にしたらもっといいんじゃないかと紙にかいて決まったものをかけばいいと想像力を学びました。これからも総合でいろいろな力をつけていきたいです。

(11/8)

人の意見を聞き、それを取り入れよりよいものを作っていくとする力・想像力・つけた力を使っていくとする意欲

ぼくが今日の学習で学んだことは、2つあります。1つ目はお客さんへの態度です。ぼくが売っているときに「ありがとうございます」と言うのと言わないのとで、お客さんの笑顔が全然違いました。なので態度でいろんな人が笑顔になってくれたんだと学ぶことができました。2つ目は、ぼく達は頑張った分、みんながお米を買ってくれるということです。ぼくたちは、お米の量を量って一つ一つ袋詰めをしたり、お米のパッケージを考えたり色々大変だったけど、ぼく達が頑張ったら、たくさんの方が買ってくれたので、うれしかったです。これからもこの力を活かしていきたいです。(12/1)

態度で人に与える影響が違うという認識・頑張った分、喜びが大きいことの自覚・ついた力を活かしていくとする意欲

今日、総合で学んだことは、2つあります。1つ目は、協力の力です。お米パーティーの準備をほとんど3組の人がやってくれたので、他の組が手伝っていたし、自分も3組のためにがんばれたので、協力の力がつきました。2つ目は、相手に気持ちを伝える力です。ぼく達は、縄ないや田植え・稲刈りを教えてくださった方にお礼の感謝の言葉を言うときにただ言うのではなく、ちゃんと伝えないといけないと思いました。ぼくは、お礼の言葉を言っていないので、歌で伝えました。そしたら、色々な人が笑顔になってくれたので、うれしかったです。また今後もこの2つの力を活かしていきたいです。心に残ったことは1つあります。それは、ごはんを食べている時に、色々な人が積極的に教えてくださった方にお話をしていたことです。お話をしている廣田さんは、笑顔でした。その時は、とてもうれしかったです。他にも色々な人に声をかけて色々な人を笑顔にしたいです。(12/21)

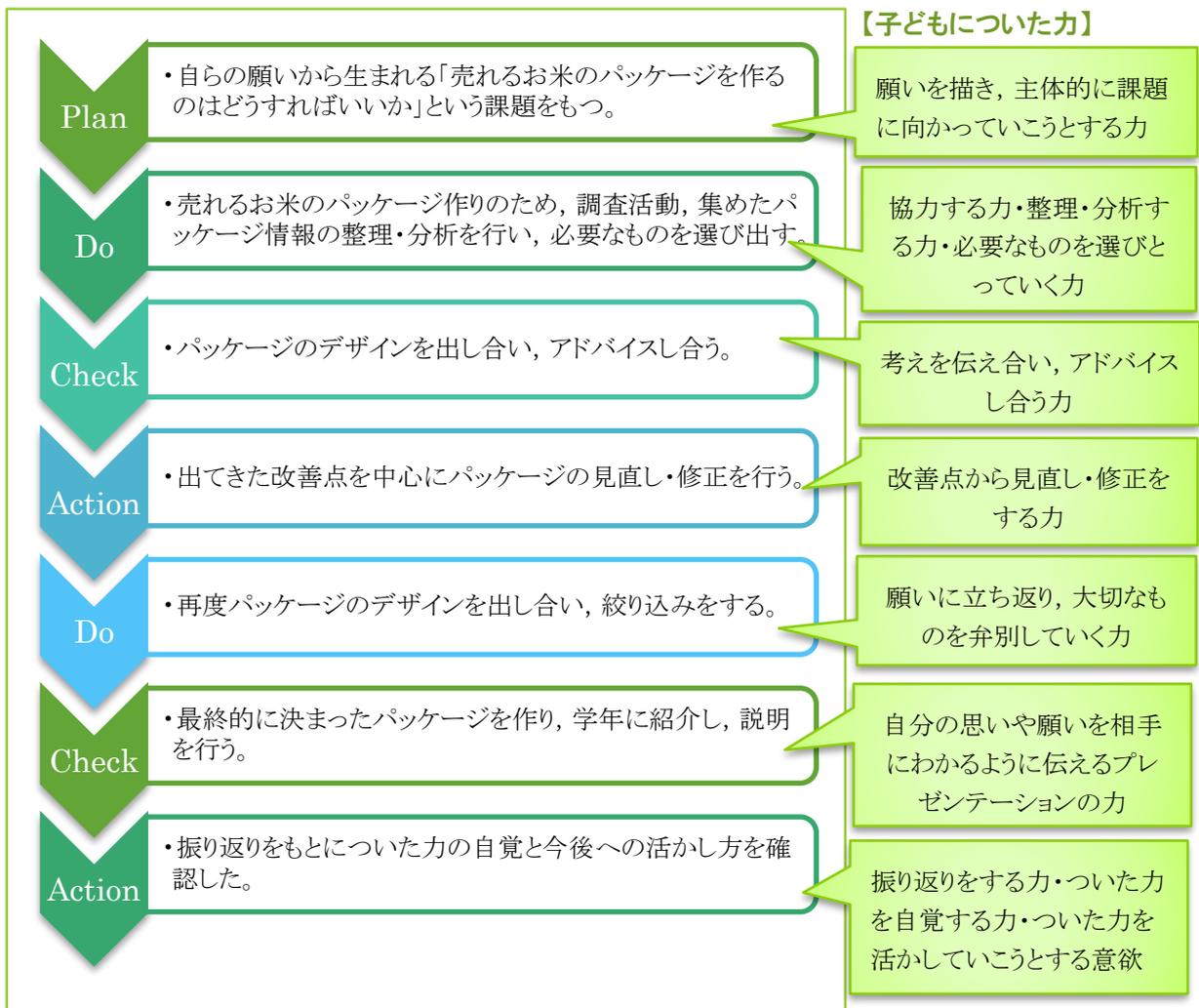
協力する力・相手に気持ちを伝える力・感謝の気持ちを心を込めて、態度で伝えようとする思い・人を笑顔にする喜び・ついた力を活かそうとする意欲・友達の見取る力・地域の方の思いを察する力・人を幸せにしていこうとする意欲

<B 児の振り返りシート>

ぼくが、今日みんなで話し合っと思ったことは、やっぱりすごいと思いました。みんな自分達のデザインをプレゼンしていてとてもうまくてすごいと思ったし、それについての意見も言えていたからです。それと5年2組は世界で1番だなと思いました。みんなで協力して、今日もいいところを言い合っし、先生がいなくてもケンカを起こさず、どうすればいいかなどを考えていて、これはみんなだからこそできるんだなあと思いました。しかも今まで話し合いが嫌いだったけど、5年2組になってから話し合いが得意になって、面倒くささから、楽しいに変わりました。なので、これから一生懸命みんなのために色々なことを全力で取り組んでいきたいです。それぞれのお米のパッケージの役割を決めて思ったことがあります。それは、決意の思いです。こういうのが苦手だけど、5年2組ならうまくいきそうなのでがんばります。(11/16)

プレゼン技能・意見を言い合う力・協力する力・話し合う力・一生懸命な力・人のためになろうとする気持ち・全力で取り組もうとする意欲・自らを奮立たせて、敢えて苦手なことに向かっていこうとする力

②実践Ⅲの分析



(4)考察

実践Ⅰ～Ⅲで子ども達についての力を資質・能力の三つの柱にそって整理してみると、ほとんどが「学びに向かう力 人間性等」に集約された。

実践	学びに向かう力 人間性等 (知識・技能, 思考力・判断力・表現力等)
Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が主体的に考える力 ・考え行動する力 ・自分達の現状を客観的に捉え, 評価する力 ・協働的な話し合い(技能) ・改善点を生かし, 意識し続けようとする力
Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・願いを描き, 主体的に課題に向かっようとする力 ・協力する力 ・支え合う力 ・注意し合う力 ・あきらめない力 ・自らを振り返る力 ・指摘されたことを受け入れる力 ・改善点を生かそうとする力 ・より高みを目指して, 励まし合い, 頑張り抜く力 ・願いにそって客観的に自らを振り返る力 ・ついた力を確認する力 ・ついた力を自覚し今後活かしていこうとする意欲 等
Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・願いを描き, 主体的に課題に向かっようとする力 ・協力する力 ・整理・分析する力(技能, 思考力) ・必要なものを選びとっていく力(技能, 判断力) ・考えを伝えあい, アドバイスし合う力(技能) ・改善点から見直し・修正をする力 ・願いに立ち返り大切なものを弁別していく力 ・自分の思いや願いを相手にわかるように伝えるプレゼンテーションの力(技能) ・振り返りをする力 ・ついた力を自覚する力 ・ついた力を活かしていこうとする意欲 ・人の意見を聞き, それらを取り入れよりよいものを作っようとする力 ・想像力 ・つけた力を使っようとする意欲 ・協力する力 ・相手に気持ちを伝える力 ・感謝の気持ちを心を込めて, 態度で伝えようとする思い ・人を笑顔にする喜び ・ついた力を活かそうとする意欲 ・友達の頑張りを見取る力 ・地域の方の思いを察する力 ・人を幸せにしていこうとする意欲 ・態度で人に与える影響が違うという認識 ・頑張った分, 喜びが大きいことの自覚 ・ついた力を活かしていこうとする意欲 ・プレゼン技能(技能) ・意見を言い合う力(技能) ・協力する力 ・話し合う力(技能) ・一生懸命な力 ・人のためになろうとする気持ち ・全力で取り組もうとする意欲 ・自らを奮い立たせて, 敢えて苦手なことに向かっようとする力

3つの実践とも、教科ではないため、その特質から知識・技能、思考力・判断力・表現力等の側面がほとんどない状態ではあるが、ここでついた「学びに向かう力 人間性」が残る2つの資質・能力に確実に影響を及ぼしていくものであると考えている。

7 成果と課題

(1) 成果として言えそうなこと

- 全ての教育活動において、付けたい力に基づいた「願い」を子どもにもたせることが重要である。
- PDCA サイクルを意識した学習過程を回していくことで子どもは自分についての力を自覚し、次につなげていくことができる。
- 自分についての力を自覚させることは、「学びに向かう力 人間性」をさらに高めていくことにつながる。

(2) 課題

今回は、育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力 人間性」に絞った検証となった。「知識・技能」,「思考力・判断力・表現力等」ほど、数値化できるものではない。そのため、分析も主観に基づいた漠然としたものとなってしまった気がする。しかし、これらの力は、子ども達の将来に大きく影響する大切な力であることは間違いない。

今後、「学びに向かう力 人間性」がどのようにして子どもに身に付いていくのか、その過程や、より客観的な分析方法を研究していきたいと思う。また、「知識・技能」,「思考力・判断力・表現力等」との関係性を子どもの姿から明らかにしていければと考えている。

Ⅲ おわりに

ある校長先生が、こんな手紙を「あゆみ」に添えて下さった。

2組の子どもたちの意欲の根拠は何だろうと思ってきました。先生が子ども個々に求める目標の高さ、そこに向かう追い込みの厳しさ…を感じました。子どもに求める以上、教師の覚悟と格闘も生半可なものではないですね。ありがとうございました。生きていくために必要な強さと優しさを十分子どもたちは学んだと思います。

この手紙を頂いた時に、自分が必死になってしてきたことは、間違っていなかったと思うことができました。日々、がむしゃらに子どもと向き合うことを繰り返していただけた私の実践に価値づけをして下さった。「生きていくために必要な強さと優しさ」こそ、私は子ども達に付けたかった力である。そしてそれ以来、日々の実践に自分の中で意味づけをし、それらをつなげていく作業を意識して行うようになった。すると、学級の子どもの成長が加速度的になっていった。教師が子ども達に付けたい力を意識しておくことの重要性を子ども達の姿から学ばせてもらっている。

子ども達に「学びに向かう力 人間性」を養っていけるのは、教育ならではの醍醐味である。そのためにも、まずは私から、日々の実践でPDCA サイクルを常に意識して回しながら、「学びに向かう力」を絶えず育み、自らの「人間性」を高めていく努力を続けていきたい。

【参考文献】

□平成27年8月26日 教育課程企画特別部会 論点整理

□平成28年12月21日 中央教育審議会答申「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」

□小学校学習指導要領解説 総則編 平成29年6月 文部科学省

□田村 学 編著「平成29年改訂 小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間」ぎょうせい